

DAIMLER

これは、2008年10月23日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

ご参考

Press Information

2008年第3四半期のEBIT^{*}は6億4,800万ユーロ

2008年10月23日

- ・ 総額7億6,500万ユーロの特別要因が収益に影響
- ・ 純利益2億1,300万ユーロ(前年同期: 純損失15億3,300万ユーロ)
- ・ 販売台数は乗用車、商用車合わせて52万2,500台と前年同期比3%減
- ・ 売上高は前年同期比7%減の238億ユーロ。為替変動・連結状況の変化調整後は5%減。
- ・ 自社株買い戻しプログラムを一時中止
- ・ 現行事業による通期EBITは60億ユーロ以上の見込み
(特別項目およびクライスラーを除く)

^{*}EBIT: 利払い前の税引き前当期利益

ダイムラーAG(DAG)の第3四半期実績は金融危機とその実体経済への影響、世界的な消費心理の冷え込みにより打撃を受け、EBITは6億4,800万ユーロとなりました(前年同期: 18億9,100万ユーロ)。

メルセデス・ベンツ・カーズの収益悪化がEBIT減少の主な原因となっています。また、特別要因も全体で収益を7億6,500万ユーロ押し下げました。

ただし、ダイムラー・トラック部門、メルセデス・ベンツ・バン事業部門、ダイムラー・バス事業部門では収益が増加、ダイムラー・ファイナンシャル サービスも増益となっています。

純利益は 2 億 1,300 万ユーロ(前年同期: 純損失 15 億 3,300 万ユーロ)となりました。これにより 1 株当たりの収益は 0.21 ユーロ(前年同期: 1 株当たりの損失 1.47 ユーロ)となります。なお、前年の純損失にはクライスラー売却に伴う特別項目が含まれていました。

また、自社株買い戻しプログラムは一時中止いたします。これにより、発行済み株式の 10%を買い入れる当初の目標は達成できない可能性があります。

DAG のディーター・ツェツェ会長 兼 メルセデス・ベンツ・カーズ統括は「きわめて厳しい状況であると認識しています。ダイムラーの経営基盤は健全ですが、すべての事業においてコスト効率化プログラムを推し進めるとともに、大胆な研究開発および製品計画を引き続き実施していきます」と述べています。

グループ販売台数は 3%減

販売台数は乗用車、商用車合せて 52 万 2,500 台(前年同期: 53 万 7,000 台)となりました。

売上高は前年同期の 257 億ユーロから 238 億ユーロに減少しました。為替変動ならびに連結状況の変化を調整した後の売上高は 5%減となります。

従業員数は全世界で 27 万 5,535 人(前年同期: 27 万 1,961 人)です。このうち、ドイツの従業員数は 16 万 8,667 人(前年同期: 16 万 6,971 人)となっています。

部門別の詳細について

メルセデス・ベンツ・カーズの販売台数は 31 万 5,800 台となりました(6%減)。ブランド別では、メルセデス・ベンツが 28 万 2,100 台(8%減)、スマートが 20%増の 3 万 2,300 台となっています。売上高は 116 億ユーロとなりました(前年同期: 141 億ユーロ)。

EBIT は 1 億 1,200 万ユーロと、効率の改善にもかかわらず、前年同期(13 億 3,100 万ユーロ)を大きく割り込みました。

収益悪化の最大の要因は、NAFTA 地域および欧州主要市場における急激な販売の減少です。これに関連して、リース車両残存価値の評価見直しにより 4 億 4,900 万ユーロの特別費用が発生しました。他の減益要因としては、モデル構成、為替変動の影響、原材料価格の高騰が挙げられます。

ダイムラー・トラック部門では、販売台数が 4%増の 12 万 2,700 台、売上高も前年同期の 70 億ユーロから 73 億ユーロに増加しました。

EBIT は 5 億 1,000 万ユーロとなり、米国および日本の市況が厳しい中、前年同期を上回りました。

増益要因としては、ブラジルおよび欧州(主にドイツ)でのトラック販売が好調だったことに加え、モデル構成や製品のポジショニングが有利に働いたことが挙げられます。ただ、新製品、強化製品開発にともなうコストはマイナスの要因となりました。

欧州/ラテンアメリカ地域(メルセデス・ベンツ)の販売台数は、12%増の 4 万 7,300 台となりました。NAFTA 地域(フレートライナー、スターリング、ウェスタンスター、トーマス・ビルト・バス)では 2 万 5,800 台と、前年同期比 7%増となりました。ただし、前年同期実績は米国の販売低迷が響いた結果となっています。アジア地域(三菱ふそう)は日本以外で着実に販売を伸ばしましたが(1%増)、日本市場での需要低迷の影響を打ち消すにはいたりませんでした。

ダイムラー・ファイナンシャル サービスは、契約額が 11%増の 639 億ユーロとなりました。また、東欧とアジアを中心に新たに 15 社が連結子会社として加わりました。この連結状況の変化と為替変動の影響を除いた契約額の増加は 9%となりました。新規事業分は 19%増の 77 億ユーロ、調整後は 18%増となります。

EBIT は 1 億 7,300 万ユーロと、前年同期の 8,700 万ユーロを上回りました。ただし、比較対象となる前年同期は、クライスラー株式の過半数を譲渡後に NAFTA 地域でファイナンシャル サービス事業を分離した際の費用が大きく響き、芳しくない実績でした。収益改善の他の主な要因としては契約額の増加、マイナス要因としてはリスクコストがさらに上昇したことが挙げられます。

バン、バスおよびその他の事業部門では EBIT が 1 億ユーロの赤字(前年同期: 3 億 1,900 万ユーロ)となりました。ただし、メルセデス・ベンツ・バン事業部門、ダイムラー・バス事業部門については、販売台数の増加により、それぞれ 2 億 1,200 万ユーロ、9,200 万ユーロと、増益を達成しています。

販売台数では、**メルセデス・ベンツ・バン**が厳しい市場環境の中、1%増の 7 万 3,200 台を達成しました。

ダイムラー・バスは完成車とシャーシで 1 万 800 台と、前年同期のきわめて高いレベルをさらに 15%上回りました。その大きな要因は欧州の販売台数の増加であり、メルセデス・ベンツとセトラで 31%増の 2,300 台を記録しました。メキシコ、南米でも販売台数がそれぞれ 44%、3%増と、きわめて好調に推移しています。

EADS 社の収益のうち、DAG 計上分は 800 万ユーロの赤字となりました(前年同期: 2,000 万ユーロの赤字)。DAG のクライスラー社への出資分は、EBIT に対して総額 3 億 5,100 万ユーロのマイナス要因となりました。これには、事業再構築プログラムおよび残存価値評価見直しによる 2 億 4,800 万ユーロの特別費用が含まれています。なお、上記の EADS 社およびクライスラー社の持分株式による実績は現金残高に影響を与えるものではありません。

今後の見通し

金融危機と将来の景気への影響を考えると、今後の見通しはきわめて不透明です。さらに、各国政府が発表した行動計画による金融市場、実物市場安定化効果がいつごろ現れるかを確実に予測することも現時点では不可能です。

メルセデス・ベンツ・カーズでは、景気の後退や生産調整にも関わらず、前年なみの販売台数を維持できるものと予測しています。新型 C クラス・セダンおよびステーションワゴン、新型スマート フォーツーが出揃ったことに加え、今年新たに導入または一部改良を行った A クラス、B クラス、CLS、SLK、SL、CLC もよい材料となります。さらに、来年は M クラスの一部改良と新型 GLK の導入による拡販効果が見込まれます。一方、E クラスについては今年が通年販売最後の年となることから、販売の減少を予測しています。

金融市場の混乱、主要市場における販売台数の落ち込みやクルマの残存価値評価見直しの必要など、先進国の経済に対する影響から、メルセデス・ベンツ・カーズの従来の 2008 年通年収益見通しは達成不可能となりました。2008 年 EBIT は 25 億ユーロ程度、販売収益率は約 5%となる見込みです。このうち、リース車両の残存価値の見直しによるマイナスは 4 億 4,900 万ユーロと予測されます。

ダイムラー・トラック部門では前年の実績を上回る見込みです。これは主に、ブラジル、インドネシア、中東などの市場で販売台数が好調に推移していることによるものです。さらに、東欧でも販売台数の増加が見込まれるものの、年末には落ち着くものと予測されます。つまり、これまで 6 年連続で平均を上回る実績を達成してきた欧州商用車市場がふたたび正常に戻ることにあります。米国および日本市場では、今年もふたたび前年割れが予測されます。

原材料費の高騰と米国経済の後退により、販売台数の増加による増益効果は、一部なくなります。これにより、ダイムラー・トラックの 2008 年 EBIT は約 17 億ユーロと予測されます。これには、ダイムラー・トラックの北米事業の再構築に伴う約 2 億 3,000 万ユーロの特別費用が含まれています。

ダイムラー・ファイナンシャル サービス部門の 2008 年通年株主資本利益率は約 14%となる見込みです。契約額は 2007 年末よりある程度増加するものと思われます。

メルセデス・ベンツ・バンは厳しい経済環境の中、前年実績を上回る販売台数を見込んでいます。

ダイムラー・バスは今年もふたたび販売台数で過去最高を記録するものと見られます。

ダイムラーグループの 2008 年通年の総売上高は前年をわずかに上回る(前年: 994 億ユーロ)見込みです。

各部門の予測を総合すると、現行事業による**グループ** EBIT は、60 億ユーロ以上となる見込みです。これに含まれない特別項目は、メルセデス・ベンツ・カーズのリース車両残存価値評価見直し(-4 億 4,900 万ユーロ)、ポツダム広場の不動産売却(+4 億 4,900 万ユーロ)、EADS 社株式譲渡(+1 億 3,000 万ユーロ)、ダイムラー・トラックの北米事業再構築(-2 億 3,000 万ユーロ)、新経営モデル(-1 億 6,900 万ユーロ)、クライスラー関連要因などです。なお、現行事業による EBIT の従来予測値は 70 億ユーロ以上でした。

しかし、現在の金融市場および各国自動車市場の混乱により、現在では予測がきわめて困難な情勢となっています。

ダイムラーグループは、現在、金融危機の中でも強固な経営基盤を維持しており、今後も安定した経営が見込まれます。

2008年第3四半期および2007年第3四半期のEBITに影響を与えた特別項目は以下のとおりです。

EBITに影響した特別項目 (単位: 100万ユーロ)	2008年第3四半期	2007年第3四半期
メルセデス・ベンツ・カーズ 残存価値評価見直し	(449)	-
バン、バスおよびその他 EAS株譲渡に伴う損益	(7)	37
事業再構築プログラム/ クライスラー残存価値評価見直し	(248)	-
調整 新経営モデル	(61)	(67)